

先生各位

検査受託中止のご案内

謹啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、
厚くお礼申し上げます。

この度、下記に掲げる検査項目におきまして、検査の受託を中止させていただきたく
ご案内申し上げます。

何卒、ご了承賜りますようお願い申し上げます。

敬白

記

■実施日 平成 26年 3月 31日(月)をもって受託中止

■受託中止

案内書掲載頁	項目コード 統一コード	検査項目
51	2027 5E155	トキソプラズマ抗体(LA)

■代替項目

案内書 掲載頁	項目コード 統一コード	検査項目	判断料 実施料	採取量 必要量	採取容器 提出容器	保存	検査方法	基準値	所要日数	備考
51	2129 5E156	トキソプラズマIgG抗体	免疫 93	血液2 血清0.3	01 21	冷	ELISA	6 IU/mL 未満	2~4	*00
	2130 5E157	トキソプラズマIgM抗体	免疫 95	血液2 血清0.3	01 21	冷	ELISA	0.80 cut off index 未満	2~4	★00

●トキソプラズマIgG抗体……

一般に感染後1~2週間以内に出現し、6~8週でピークとなり、その後は漸減するが終生検出されます。

妊婦健診でIgG抗体が陽性の場合、過去に感染したことがわかりますが、検査のタイミングによっては妊娠中に初感染した可能性もあるため、IgMを測定し感染時期を推測する必要があります。IgMが陽性であれば初感染の可能性が、陰性であれば過去の感染の可能性が高くなります(下段トキソプラズマIgM抗体参照)。

IgG抗体が陰性であれば感染歴がないため、その後の感染に注意して頂く必要があります。

但し、感染時期が近い場合(感染後2週間以内)、抗体産生が十分でなく陰性である可能性があるため、IgMも測定する必要があります。

●トキソプラズマIgM抗体……

一般に感染後1週間以内に出現し、4ヶ月~2年間に渡って陽性期間が持続します。

IgM抗体が陽性の場合、初感染が疑われますが、陽性持続期間が長い場合IgM抗体陽性でも初感染とは限らず(IgM抗体陽性妊婦の70~80%が妊娠前の感染であったという報告があります)、IgG抗体・IgM抗体のいずれもが陽性の場合、IgG Avidity*の測定による感染時期の確認が推奨されます。

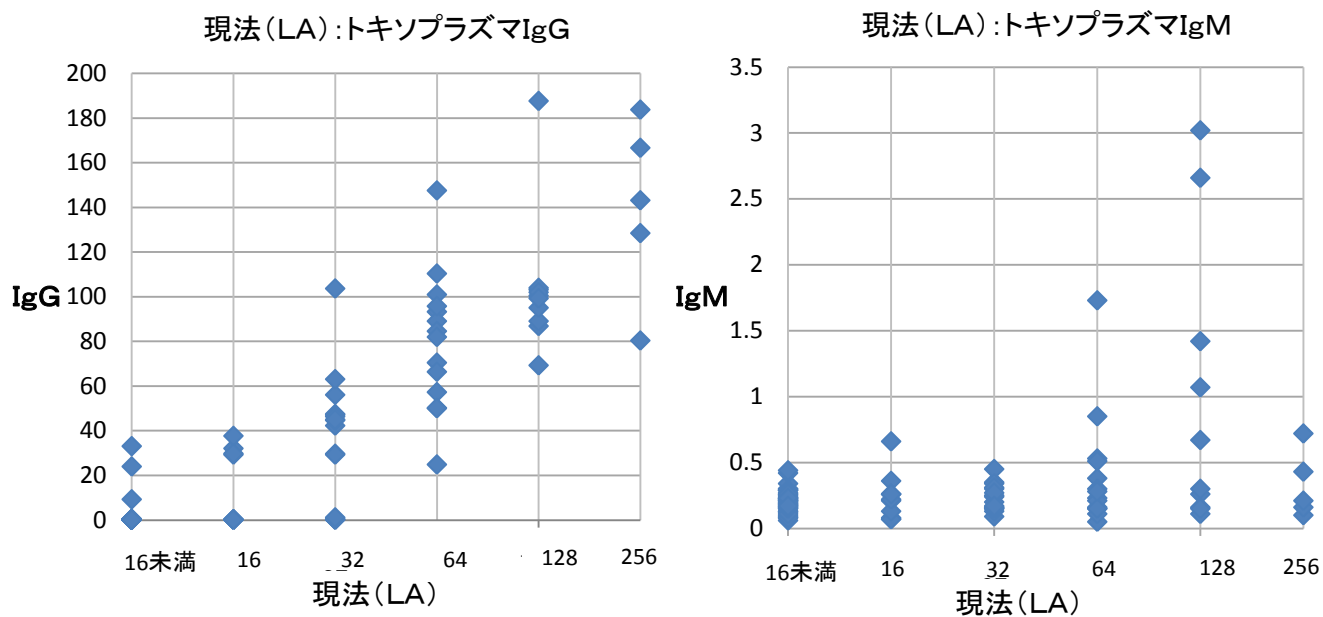
IgMが陰性の場合、初感染でないことはわかりますが、過去の感染歴についてはIgG抗体の測定が必要です。

*トキソプラズマIgG抗体のavidity(抗原結合力)を測定。avidityは時間とともに強力になることを利用し、感染時期の診断がある程度可能とされている。

ご不明な点等ございましたら貴院担当営業もしくは当社お客様窓口までお申し付けください。

裏面もご確認下さい

《代替法との相関》



《トキソプラズマIgG抗体・IgM抗体 判定基準》

トキソプラズマIgG抗体 (判定基準)

IU/mL	判定
6未満	陰性
6～8	判定保留 ^{*1}
9以上	陽性

トキソプラズマIgM抗体 (判定基準)

cut off index	判定
0.80未満	陰性
0.80～0.99	判定保留 ^{*2*3}
1.00以上	陽性 ^{*2*3}

*1 低濃度の抗体が認められ、トキソプラズマ感染の疑いがあります。

*2 10～20日後採取した血清による再検査をお勧め致します。

*3 トキソプラズマIgG抗体検査による確認をお勧め致します。